

## 「野田・九条の会」アピール

平和を願い戦争に反対する心は世界の人々の共通の想いです。

日本には、戦争を永遠に放棄した最も先進的な「第九条」の条文をもつ憲法があります。かつて日本は軍国主義の道をまっしぐらに進み、朝鮮を属国にし、中国・東南アジアを侵略し、内外ともに惨憺たる犠牲を出しました。この過ちに対する反省の上にならば、日本国憲法は存在します。

現在、その貴重な憲法第九条を「改正」しようという動きが、政府・与党を中心にかつてない規模で進められております。改憲のためには、国会議員の三分の二以上の賛成を得、それを国民に提案し、投票によって過半数の賛成を得なければなりません。そのための「憲法改正国民投票法」が与党によって用意されていますが、これには公務員、教育者、外国人の投票運動の禁止とか、新聞・雑誌・放送が、表現の自由を濫用して事実をゆがめた報道をしたり、評論を載せたりしてはならない、などと規定し、違反したときの重い罰則を定めています。政府・与党は国民投票を前にして、言論の自由さえ抑圧し、なんとしても改憲に持ちこもうとしています。

平和憲法の改憲は、戦争への道を開くことであり、現在だけでなく、未来にずっとかわります。将来、若者たちに、惨酷・非道な戦争を担わせ、母親や妻を嘆かせ、内外の国土を焦土と化させてよいのでしょうか。戦争は大量殺人、最大の犯罪です。かつての原爆の悲惨、現在のイラクの惨状を他人ごとではなく直視しようではありませんか。

昨年6月10日、知識人九人の呼び掛けによって、「九条の会」が発足しました。その呼び掛けは日本中に広まって、次々と各地で、「〇〇九条の会」が結成され「平和憲法を守れ」「九条改悪に反対」の意志をあきらかにしています。「野田・九条の会」も、憲法を守るこの一点で心をひとつにしようと発足しました。多くの人々のご賛同とご参加を期待致します。

2005年2月27日

勝田武彦(元市選管委員長代理) 新村秀雄(江戸川病院理事長) 武智多恵子(前子ども劇場千葉県センター理事長)

日佐戸輝(元県身障者福祉協会理事長) 福田行夫(自治体問題研究者) 藤島高(元高等学校校長)

松本希和(牧師) 森本房子(作家) 匿名希望(住職)